

一寸の光陰フアマミコン遊び易し

日本放送協会放送文化調査研究所

世論調査部 多田哲朗
主任研究員



〔筆者紹介〕

多田哲朗・ただてつろう

昭和 十年 東京に生まれる
昭和二十九年 福島県立原町高等学校卒業
同 年 東京大学文科I類入学
昭和三十四年 東京大学法学部卒業
同 年 NHK入局

中央研修所勤務等を経て

NHK世論調査部主任研究員（現職）

近年は講師として活動する機会

が多く、テーマは多岐にわたる

・最近の主な講演テーマ

『学生から社会へ』

『職場の人間関係』

『コミュニケーション』

『リーダーシップ』

『高齢化社会を生きる』 等

少年老い易く学成り難し。
一寸の光陰軽んずべからず。

未だ覚めず池塘春草の夢。

階前の梧葉すでに秋声。（朱熹）

この漢詩の作者は朱熹。宋の時代の最大の儒学者である。後世、朱子の敬称で呼ばれた。

詩の後半の意味は「池の塘（つつみ）に春の若草の萌えるような楽しい夢が、まだ覚めきらないうちに、はや、階（きざはし）の前の梧葉に秋風が吹いて来た。少年時代を楽しんでいるうち、はや、老境が迫って来る。」というものである。

少年老い易く……は、古今の名言だが、今の若者には死言なのかも知れない。そこで戯れに作ったのが、「一寸の光陰フアマミコン遊び易し」である。

時間ほど貴重なものはないが、時間ほど浪費しやすいものもない。時間の貴重さを痛切に感じるのは、学生では受験勉強の追い込みのときであろうが、いったん、大学にでも入学してしまつと、キャンパスを国民休暇村として過ごしてしまう。

NHKに勤務して三十年近くなった。そのうち、一番長かった職場は職員教育を行う研修所で、二回の勤務で、延べ十六年にもなる。新人の教育も教室で五年間担当した。すばらしい新人にも出会った。